

第5学年 体育科学習指導案

令和7年 月 日 第校時
小学校 5年 組 名

1 単元名 ハンドボール

2 単元について

(1) 教材観

ボール運動は、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、低学年と中学年のゲームの学習を踏まえ、ボール操作とボールを持たないときの動きによって簡易化されたゲームを行い、中学校の球技の学習につなげていくことが求められる。ハンドボールは、ボールが小さく軽いことや適度な硬さであること、ボールを手で扱うことなどから、基本的な技能による差が比較的現れにくく、ボール運動特有の集団対集団の攻防のおもしろさをより感じやすい教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は休み時間にサッカーやキャッチボール（野球）、バレーボールをして過ごす児童が多く、運動に対して肯定的な考えをもつ児童が多いと考えられる。学級会で話し合っただけの集会をする際にも、ドッジボールやバスケットボール、水球などの意見が多く見られることもその一因である。また、1学期に行ったプレルボールの学習でも、全員が積極的に取り組んでいたことから、児童はボール運動に対して親しみをもっていると考えられ、本単元でも同様の姿が予想される。一方で、技能の個人差が大きいためボールを怖がっている姿や勝敗に拘るあまりチームとして上手くいかない姿も散見されたため、これらが学級の課題でもある。

(3) 指導観

全時間においてスキルアップタイム（各自の必要に応じた練習時間）を設け、ボール操作やボールを持たないときの動き（ゲーム参加に必要なスキル）を高める。また、小さく軽く柔らかいボールを使用することで、児童の実態である個人の技能差をさらに軽減する。そして、数的優位や場の工夫などを用いることで、ボール運動特有の集団対集団の攻防のおもしろさに迫らせたい。チーム内で役割を分担したり、互いの考えを認め合ったりすることで、ルールを守り仲間と助け合っただけで活動できるようにしたい。

3 単元の目標

(1) ハンドボールの行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中で、チームの作戦に基づいた動きや位置取りで、攻守入り交じった簡易化されたゲームをすることができるようにする。

【知識及び技能】

(2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた練習や作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) ハンドボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合っただけで運動をしたり、勝敗を受け入れたりし、仲間の考えや取組を認めながら、場や用具の安全に気を配って運動することができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ハンドボールの行い方について、言ったり書いたりしている。 ② ボール操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 ③ 攻撃側にとって易しい状況の中で、チームの作戦に基づいた動きや位置取りができる。	① ルールを工夫している。 ② 自己やチームの特徴に応じた練習や作戦を選んでいる。 ③ 課題の解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① ハンドボールに積極的に取り組もうとしている。 ② ルールを守り、仲間と助け合って運動しようとしている。 ③ 勝敗を受け入れようとしている。 ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤ 場や用具の安全に気を配っている。 ⑥ ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。

5 指導と評価の計画（6時間）

時	1	2	3	4	5	6
学 習 活 動	0	1 準備 2 挨拶				
	1 5	3 スキルアップタイム（各班選択）				
学 習 活 動	3 0	4 本時のめあてを確認する				
	4 5	5 数的優位や場の工夫を生かしたミニゲームを行う。 ・3対2パスゲーム ・3対3ハーフコートゲーム ・2ゴールゲーム 6 トークタイム（話し合い） ・チームの作戦について ・個人の役割について 7 振り返り 8 片付け 9 挨拶	5 ゲーム①を行う ・前時のトークタイムで話し合った動きや作戦をゲームに生かす 6 トークタイム（話し合い） ・チームの作戦について ・個人の役割について ・タブレットを用いた話し合い 7 ゲーム②を行う 8 振り返り 9 片付け 10 挨拶			
評 価 の 重 点	知識・技能	① 振り返り		③ 観察	② 観察	
	思考・判断・表現		① 観察		② 観察	③ 観察・振り返り
	主体的に学習に取り組む態度	⑤ 観察	② 観察	④ 観察	⑥ 観察	③ 観察

6 本時 (5 / 6 時)

- (1) 目標
- ・チームの作戦に基づいたボール操作やボールを持たないときの動きで、ゲームができる。
 - ・勝敗を受け入れることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
5	1 場の準備をし、本時のめあてを確認する。	○安全に配慮して準備を行うよう伝える。		観察 ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> チームの作戦に合った動きで、ゲームをやってみよう。 </div>				
5	2 スキルアップタイムをする。	○チームや個人の課題に合った練習を選択できるよう支援する。 ○作戦に生かせるようなボール操作やボールを持たないときの動きを称賛する。		
12	3 ゲーム①をする。	○仲間の考えや取組を認めようとしている児童を称賛する。	○ボール操作やボールを持たないときの動きができてい (観察)	
6	4 トークタイムをする。	○うまくいったことやうまくいかなかったことも仲間に伝えるよう声かけをする。		
12	5 ゲーム②をする。	○作戦に基づいたボール操作やボールを持たないときの動きを称賛する。 ○よい位置取りができていいる児童を称賛し、ボールが来なかったり、ゴールが取れなかったりしても、自信がもてるよう支援する。		
5	6 振り返りをする。	○めあてに立ち返り、作戦に基づいた動きができたかを問い、勝敗のみに固執しないよう声かけをする。		○勝敗を受け入れようとしている。 (観察)

(3) 評価及び指導の例 (チームの作戦に基づいたボール操作やボールを持たないときの動きで、ゲームができる。)

「十分満足できる」と判断される状況	チームでの作戦に基づいたボール操作やボールを持たないときの動き (攻守において) に加えて、相手の状況によって自分のプレーやチームの作戦を変えるなど、臨機応変な動きや選択ができていいる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ゲームの中で各班の作戦に共通するような動き (フリーになるための動き、相手の嫌がるボール操作の仕方など) が出たときに全体で共有することにより、全員が理解を深められるようにする。

評価及び指導の例 (勝敗を受け入れることができる。)

「十分満足できる」と判断される状況	勝敗のみに左右されず、チームの良かったことや課題に目を向けて、次時へつなげる前向きな捉え方や受け止めができていいる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	悔しい気持ちや向上心を認め寄り添いながらも、チームの作戦にあった動きができたかという視点に立ち返られるよう声をかけ、勝敗のみによる振り返りにならないようにする。